

第27回群馬県老人保健施設大会

「その人らしさ、ハビリスの実現について」

第27回群馬県老人保健施設大会 大会長

介護老人保健施設プランタンおおま 施設長 水間 春夫



来年は医療・介護報酬同時改定となり、第7期介護保険計画が開始されます。超高齢社会に伴う医療、介護の社会保障負担が年々増加する一方でそれに見合う財源は厳しくなっています。老健の大きな機能である在宅復帰や自立支援に向けた取り組みが評価される反面、それがなされない場合はマイナス改定になると予見されています。また、介護、医療における人材不足もさらに厳しくなっており、良質なサービスの需要に供給が追いついていない状態です。

そんな中で如何に在宅復帰を図るのか、またはご自宅での生活を安心して過ごしていただけるための在宅サービス、訪問系サービスをどのように提供すべきなのか、私たちを取り巻く課題は山積です。

介護老人保健施設の役割も様々です。入院治療後の在宅生活にまだ不安があるため、退院後にもう一息リハビリを頑張ってもらって「中間施設」として、心身機能低下が進行し在宅生活が困難になってしまったから、ご家族の「レスパイト目的」として、あるいは終末期における「看取り対応」を行う、など等・・・。とはいえどんな状態の方に対しても行うべき、私たちの共通の目的があります。それは今大会のテーマである「その人らしさを実現するため」のケアです。

病気や事故などでいったん失われてしまった、その人が本来あるべき状態（ハビリス）を再び（リ、Re）元に戻すこと。との「リハビリ」とは老健の代名詞ともいえますが、必ずしも回復を目指すだけではありません。アルツハイマー型認知症などの進行性疾患や、そもそも老年症候群、いわゆる老衰というような自然な経過での心身機能低下は元通りにすることは出来ません。そのような中でも、たとえ脳卒中でマヒなどの後遺症が残っても、今、このときにおけるその人らしさが回復できること。そのためのケアが求められます。

また、精神・身体の「機能の回復」に目が行きがちですが、「心の回復」も常に念頭におかなければなりません。介護を受けている方に笑顔が見られるのか、あるいは不快、不機嫌、さらには拒否や抵抗などをされてしまうのか？こちらが心をこめて接していても、やり様がその人に合っていないければ気持ちを傷つけてしまうかもしれません。そこには「技術」が求められます。そこで今回の特別講演は「ユマニチュード」の実践、普及に取り組んでおられる伊東美緒先生にお願いいたしました。認知症のような理解が乏しい、気付く能力が低下している状態の方はどのような心理状態になっているのか？いかに不安なく安心して介護を受けていただけるのか？そのための接遇をどうすべきか？等の問いに対して、現場ですぐにでも活かせる貴重なお話しをしていただけることとなりました。

各施設からの口演やポスター発表も早速明日からのケアのヒントとなり、すぐにでも仕事に活かしていけることと思います。また、自分たちの施設で行なう方法とは違った取り組みなど、多に参考になるとおもわれます。参加者皆様の活発なご討議も是非お願いいたします。

最後に、ご協力いただきました老健協会事務局、東毛ブロックはじめ県下の各施設の方々、ご協賛いただいた各社の皆様と大会運営委員の方々に心から感謝いたします。誠に有難うございました。

今大会が皆様の新たな視点、及び今後のケアへの取り組みの一助になることを祈念し、大会長挨拶とさせていただきます。